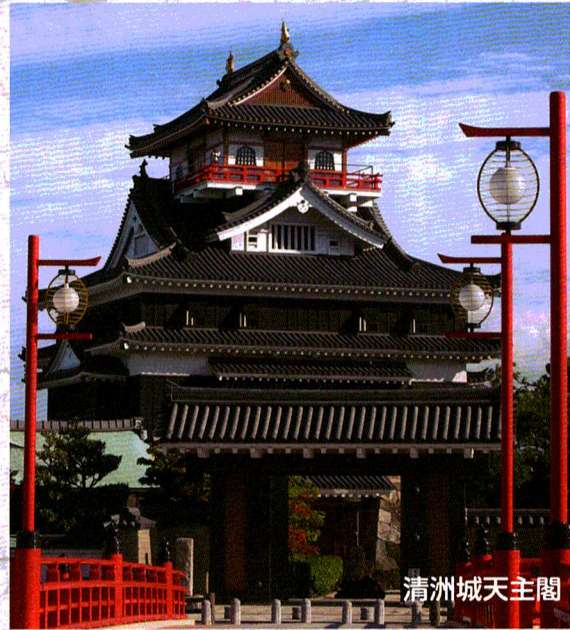


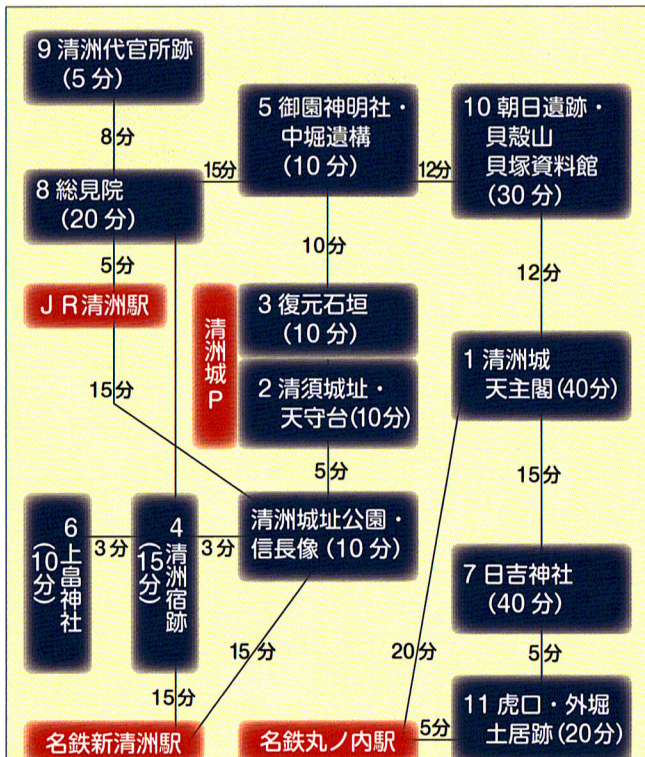
KIYOSU 清須 歴史ガイドマップ



清洲城天主閣

清須市観光協会
清須市ガイドボランティアの会
TEL 052-400-2911

清洲城下町遺跡ルート



清須城址ルート 約40分
清須城址&清洲宿跡ルート 約1時間
両コース共清洲城天主閣(約40分)含まず

1 清洲城天主閣 (資料館)

1989年に現在の場所に本瓦葺3層4階建てで建てられた。城内には清須の歴史、信長公をはじめとした戦国武将を紹介する展示がされている。

2 清須城址

下津守護所の防禦・別邸として築かれ、応仁の乱末期にこの地へ遷り、以降清須越迄の約130年間尾張の首府となった。

1555年信長が入城し、1560年の桶狭間の戦いにはこの城から出撃。1563年美濃攻めに備えて小牧城に移った。

1582年の「清須会議」で尾張を領有した次男信雄の手で、金箔輝く天主のある本丸を中心に、三重の堀を巡らせた近世城郭都市に大拡張。また関ヶ原合戦後、城主となった忠吉が1602年擬宝珠のある五条橋を架け、1607年朝鮮通信使に「関東の巨鎮」と讃えられた。

1610年家康は名古屋(城)への遷府(清須越)を実施し、五条橋をはじめ、一切合財都市ぐるみの大移動を行い、清須城は廃城となり「花の清須は野(原)」となった。現在の城址には1847年頃五条川に埋没していた石垣の石に刻んだ「右大臣織田信長公古城跡」碑が在る。高さは昔の天守台の面影を残す。また、現在のトイレの位置から内堀が発掘された。

JRの南、清洲公園(旧本丸)内には、今まさに出陣する信長公の銅像が桶狭間を睨んでいる。

3 本丸石垣 (復元)

五条川災害復旧工事の際発見された。軟弱地盤に備え、石垣が不等沈下しないように、枕木と胴木が梯子上に組まれている。

4 清洲宿跡

1616年美濃路の宿駅として清洲宿が置かれた。江戸時代半ばより戦中まで川上神社の川祭が行われ、尾張随一の「清洲花火」が行われた。当時の面影を残すのは、本陣林家正門・清涼寺、外町には線香や曲げわっぱを扱う店が残っている。

5 御園神明社 (清洲三社)・中堀遺構

伝・垂仁16年勧進。天正18年大政所と朝日殿社殿を造営。伊勢神宮の御厨の一角か? この門前で御園市が開かれていた。御園神明社門前には中堀の遺構がほぼ完全な形で残っている。

6 上富神明社 (清洲三社)

伝・垂仁13年(3世紀後半)鎮座。伊勢神宮の御厨があった上富の地に勧進され、のち城の鎮護として今の位置(下中小路)に遷したという。

7 日吉神社 (清洲三社)

社伝によると771年の創建。秀吉・信雄・忠吉の保護を受け、尾張藩のもとで格式高く扱われていた。猿を神の使者と崇め、「おさる神社」とも呼ばれている。

8 総見院

信長及び織田家の菩提寺として信雄によって建立され、清須越して名古屋大須に移転。初代尾張藩主義直により現在地に再建。寺宝として本能寺の変焼け跡より探し出された焼兜「信長公御召兜」、「信長公像」、徳川家より拝領の品々、その他円空仏等多くの文化財がある。

9 清洲代官所跡

1784年尾張藩の地方支配強化策として設置された。敷地内には代官、手代の屋敷ほか宝蔵、米蔵、牢獄など15以上の建物もあった。代官所玄関は民家に移築され、現在は畑地になっている。周辺には郷宿もできた。近くには美濃路に通じる「役所橋」という名の小橋が今も残っている。

10 朝日遺跡

東西1.4km、南北0.8kmで九州の吉野ヶ里遺跡に匹敵。最盛期には1000人もの人々が生活し、2012年重要文化財に指定された赤く塗られたパレス・スタイル土器をはじめ、農具、狩猟具、漁労具など膨大な遺物が発見されている。貝殻山貝塚資料館も併設されており東海地方を代表する重要な遺跡である。

11 虎口と外堀土居跡

現在の天王公園は南の虎口。その西に、外堀(総構え)の土居跡が残る。

12 小田井城址

城主は織田大和守敏定、弟久孝(常寛)とその子孫。広さは中心部の曲輪だけで南北約110m・東西約70mあり、中世城郭として比較的大規模であった。村絵図には古城・羽城・城並・城前などの地名が見られる。いま城址公園にある大正5年の「小田井城址」碑はもと本丸跡(古城交差点北)にあったもの。

13 宮重大根発祥の地

青首大根の原種で、1000年以上前から栽培されていた。江戸時代になって尾張藩主の進物に用いられるほど美味と絶賛され全国的にその名が知られるようになった。昭和初期に全盛期を迎え、戦後は食料増産に対応できず衰退したが、純品種復活栽培が成功を収め愛知県の伝統野菜に選定されている。

14 天桂寺の鴛鴦塚

1419年創建の曹洞宗寺院。言い伝えでは、白弓橋の下にいた番いの鴛鴦(おしどり)の雄が矢で射られた。翌年、雌を矢で射たら雄の首を胸に抱えていたと言う。夫婦愛に心を打たれ、憐れに思っ作られた鴛鴦塚や言い伝えを描いた襖絵もある。

15 長光寺 (六角堂)

1161年平頼盛の創建。1338年に足利尊氏が復興し、1499年臨濟宗寺院に。1235年に鑄造された珍しい鉄製の延命地藏菩薩立像は重要文化財の地藏堂(六角堂)に安置。織田信長が愛飲した臥松水という井戸がある。

美濃路ルート



16 美濃路

東海道宮宿と中山道垂井宿を結ぶ脇街道。7宿、全長14里24町余(約59km)。徳川将軍の上洛・参勤交代の大名・朝鮮や琉球使節・茶壺道中・鮎鮪の献上便などに利用されていた重要な街道だった。岩倉街道との追分である旧枇杷島小橋のたもとには、1827年の道標が立っている。

17 尾張西枇杷島まつり

もとは天王社の祭礼で、疫病退散を願う神事として旧6月10日・11日に行われた。19世紀の初めに、青物問屋などの旦那衆により、橋詰・問屋・東六軒・西六軒町に4輛の山車が作られ、明治に入り杻西町が加わり5輛になった。現在は6月の第一土曜・日曜日に行われている。

18 旧枇杷島橋と中島跡

架橋は1608年か1622年。中島を挟んで巾3間半の大橋(69間)・小橋(29間)が架かっていた。橋は総檜作りで、尾張藩は荷車の通行を許さなかった。中島は、春は桜・秋は萩の名所として賑わい、明治以降には郡役所・町役場・医院・料亭などがあつた。

19 下小田井の市跡

1610年名古屋の台所として徳川家康の許可により開設。江戸の神田・大坂の天満と並ぶ日本三大青物市場として賑わった。問屋記念館は創設者の一人九左衛門家を移築したもの。江戸時代の青物問屋の様式をよく伝えている。

20 美濃路の町家

江戸期、美濃路には清洲の宿場町と下小田井の市場町が発展し、町家が軒を連ねていた。1891年の濃尾大震災で、殆ど倒壊又は火災で滅失したが、ほぼ同様式で再建され、昭和までは当時の家並が多く残っていた。現在公開されている町家は、問屋記念館・飴茶庵と一休庵(金〜日)、国登録文化財・柴田家(要予約)がある。

21 屋根神様

名古屋市西区・清須市など名古屋城の西方に多い。秋葉・津島・熱田の三社を祀り、各々火難除け・疫病除け・武運長久祈願の意味が込められている。以前は美濃路沿いに10数カ所で見られたが、今は、一休庵・北二ツ杻西境・飴茶庵などになっている。

22 瑞正寺の宝塔

尾張藩の土器野刑場で処刑された罪人の菩提を弔うために建立された。刑場近くに建てられた宝塔としては日本一である。

23 新川開削

1785年、庄内川の氾濫による被害を防ぐために、幕府の援助を受けた尾張藩(9代宗睦)は、人見弥右衛門・水野千之右衛門に命じ農民と協力して掘削開始。1789年完了。

24 長谷院

安土桃山時代の創建。1831年、地元の嘆願により名古屋から旧地に復帰。10代藩主斉朝より多宝塔、仁王門(1952年焼失後再建)などを拝領した。

25 一里塚跡

熱田の宮宿から3番目のもの。村絵図では、道の両側の塚上に榎が植えられていた。また、一里塚に並んで自然石に刻んだ道標が正覚寺門前に移されている。

26 正覚寺・駿河塚(今川塚)

徳川家康の四男忠吉が1589年に亡くなった生母お愛の方(宝台院)の菩提寺として、1603年に須ヶ口外町に堂宇を建立。いったん清須越で名古屋に移ったが、旧地に再建された。以前は須ヶ口交差点東側にあった「今川塚供養碑」と伝えられる碑が現在は正覚寺に移されているが、伝承は誤り。本来の今川塚は美濃路と津島街道との追分(新川橋西詰)に近い土器野新田にあった。

※閑所
街道に面した町家の間に、裏へ抜ける路地があり、これを尾張地方では閑所と言う。